

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(22年8月) —総合指数は9%を超える伸び率を記録

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:9%を超える伸び率を記録

8月31日、欧州委員会統計局(Eurostat)は8月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

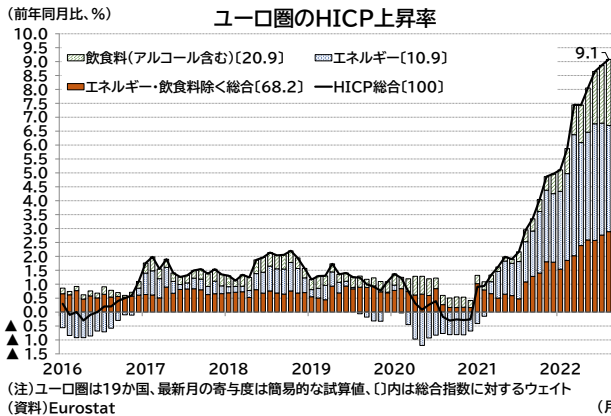
【総合指数】

- ・前年同月比は9.1%、市場予想¹(9.0%)を上回り、前月(8.9%)から加速(図表1)
- ・前月比は0.5%、予想(0.4%)を上回り、前月(0.1%)から加速

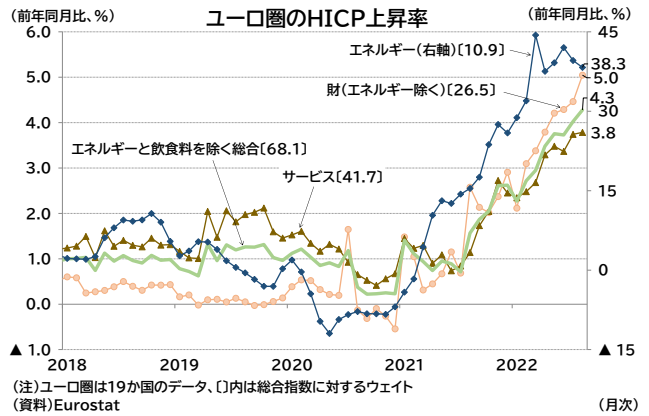
【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は4.3%、予想(4.1%)を上回り、前月(4.0%)から加速(図表2)
- ・前月比は0.5%、前月(▲0.2%)からプラスに転じた

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:コア指数や飲食料が加速

22年8月のHICP上昇率(前年同月比)は全体で9.1%となり、7月の8.9%からさらに加速し、統計データ公表以来の最も高い伸び率を更新した。「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」も4.3%と最も高い伸び率を更新している。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

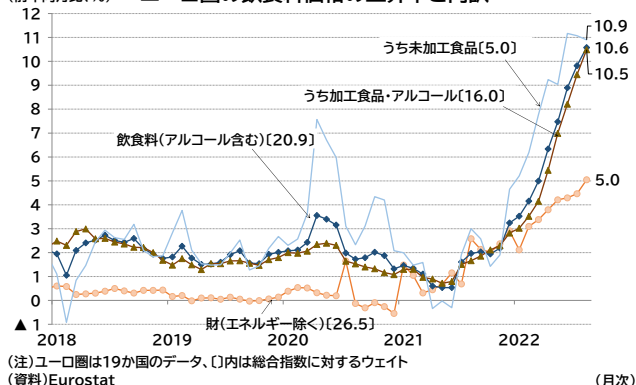
² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

（飲食料も除く）」が6月4.3%→7月4.5%→8月5.0%、「サービス」（エネルギーを除く）が6月3.4%→7月3.7%→8月3.8%となり、いずれも加速した（前掲図表2）。品目別には7月までのデータとなるが、対面サービス関連の娯楽業（5月3.6%→6月4.4%→7月4.4%）や外食・宿泊業（5月7.1%→6月7.9%→7月8.3%）、エネルギー価格の影響を受けやすい光熱費（5月16.3%→6月16.9%→7月17.7%）や輸送（5月14.0%→6月14.4%→7月12.7%）で伸び率が高い。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で6月42.0%→7月39.6%→8月38.3%となった。8月は前月比で0.0%（7月は0.3%）であり、価格水準は横ばいだったが前年同月比の伸び率ではベース効果の分だけ減速した。なお、エネルギーの前年同期比寄与度は3.82%ポイント程度（7月は4.02%ポイント）と見られる（前掲図表1）。

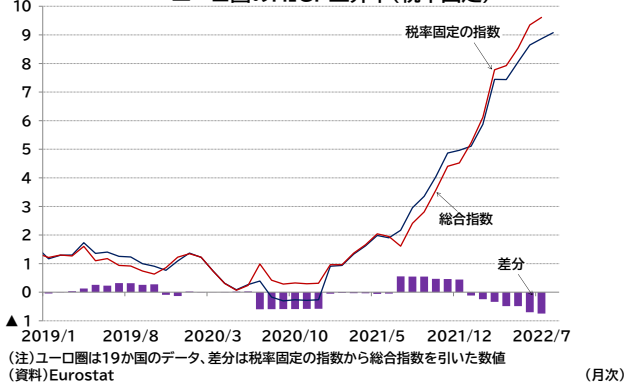
（図表3）

（前年同月比、%） ユーロ圏の飲食料価格の上昇率と内訳



（図表4）

（前年同月比、%） ユーロ圏のHICP上昇率（税率固定）

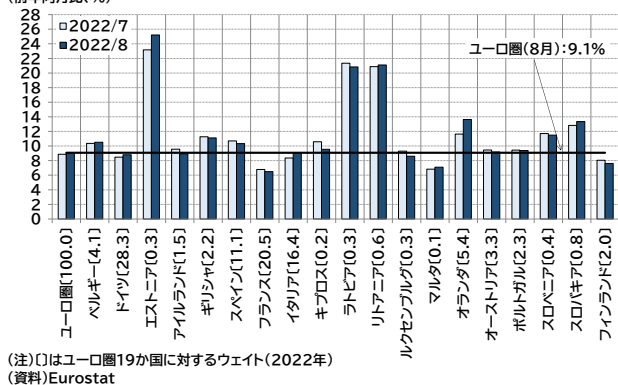


「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で10.6%（7月9.8%）となった。飲食料のうち加工食品の伸び率は10.5%（7月9.4%）、未加工食品は10.9%（7月11.1%）であり、8月は加工食品の伸び率加速が目立った（図表4）。飲食料の前年同期比寄与度は2.37%ポイント程度（7月は2.08%ポイント）と見られる。

なお、ユーロ圏ではエネルギー関係の付加価値税（VAT）引き下げなどで0.7%ポイント程度インフレ率が抑制されており（図表4）、さらにドイツにおける低額での公共交通機関乗り放題（月額9ユーロ、6月から8月末まで）なども伸び率の抑制に寄与しているため、HICPの伸び率以上にインフレ圧力は強いと考えられる。

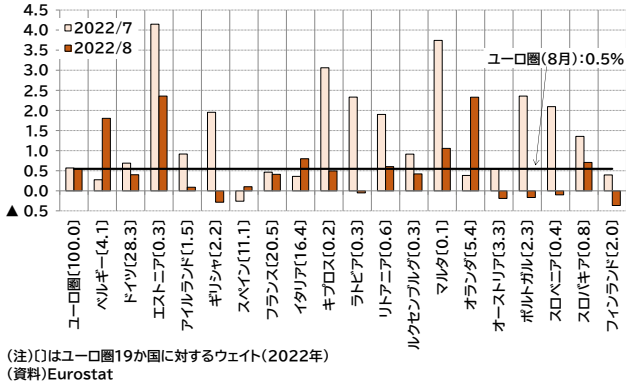
（図表5）

（前年同月比、%） ユーロ圏HICP上昇率（前年同月比）



（図表6）

（前月比、%） ユーロ圏HICP上昇率（前月比）



国別のHICP上昇率では、7月は前年同月比で19か国中8か国が加速、11か国が減速した（図表5）。また、前月比では19か国中13か国がプラスの伸び率だった（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保障するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。